



## 外国出張報告書

平成 27 年 1 月 19 日

1. 出張国名            ガーナ、バングラデシュ
2. 出張月             平成 26 年 9 月～10 月
3. 出張目的           ガーナにおける土壌肥沃度管理技術の現状把握：B、  
バングラデシュにおける節水低投入型栽培技術の現状把握：D

### 4. 成果の概要

#### 1) ガーナにおける土壌肥沃度管理技術の現状把握

「土壌肥沃度」(受託調査)(H21-25)は、熱帯サバンナ気候帯と赤道森林帯の両生態系で農家実証試験を行い、農家が地元で容易に入手可能な有機物の施用効果を検証し

「稲作土壌肥沃度改善技術マニュアル」を作成した。今回の出張では、実証試験参加農家を対象に聞き取り調査を実施した。実証試験に参加した農家は自然・社会経済条件の相違によって技術を選択的に採用している、慣行圃場(2t/ha)と新技術圃場(4t/ha)で顕著な収量差がある、近隣農家は新技術に関心をもって参加農家にアプローチしている、ことを明らかにした。

#### 2) ングラデシュにおける節水低投入型栽培技術の現状把握

バングラデシュ稲農業研究機関、農業研究機関園芸研究所、シェレバングラ農業大学、食料農業機関バングラデシュ事務所、タミルナドゥ農業大学及び傘下の灌漑技術センター等を訪問し、イネ、野菜、果樹、サトウキビ等の農業研究に係る情報収集を行った。AWDはイネの収量を低下させることなく灌水量を約30%減らす事ができる低投入型節水栽培技術である事、一方SRIは長年粗放栽培を続けて来た途上国のイネ農家の意識を、精密・集約的な栽培方法へと向けさせることのできる普及手法の一つとして有効であると思われた。